



ゴミ博士直伝 リサイクルの極意

1 令和7年1月～ プラスチックでできたごみは全てピンクの袋へ捨てるんじや!

現在ピンク色の袋に入れるのはプラマークのついた「プラスチック製品」ですが、令和7年1月からはプラマークのついていない「プラスチック製品」も合わせて

収集し、リサイクルできるようになります。

今まで燃やすしかなかったプラスチックが資源としてリサイクルされるとともに、温暖化ガスの発生も抑制でき、地球にやさしい処理方法へ変わります。



もえるごみから プラスチックごみになるごみ(例)



※全てがプラスチックでできた50cm以下のもの。

2 びん・ペットボトルは キャップを外して捨てるんじや!

びんやペットボトルなど、キャップの付いた容器は、キャップが付いたまま捨てると後のリサイクル処理が難しくなります。

びんに金属のキャップが混じると加工時に透明びんに色が付いたり、ペットボトルにキャップが付いていると圧縮梱包できなくなったりするため、清掃センターでは人の手でキャップを外しています。キャップは必ず外して、金属のものは金属類(緑色)、プラスチックの物はプラスチック(ピンク色)の袋に入れましょう。



3 資源ごみ(缶・びん・ペットボトル・プラ)は 洗ってから捨てるんじや!

汚れがひどい場合、リサイクルできないため、もえるごみもしくは埋立ごみになります。また、汚れた状態で資源ごみ袋に入れるとキレイな資源ごみも汚れて資源にできない場合があります。

緑色、ピンク色の袋に入れるのは資源となるごみですので、必ずキレイな状態で袋に入れましょう。

資源ごみは人の手で確認をしているんじや。資源ごみの向こう側には必ず人がいることを忘れないように!



ごみが資源に変わるまで 写真提供 日本容器包装リサイクル協会

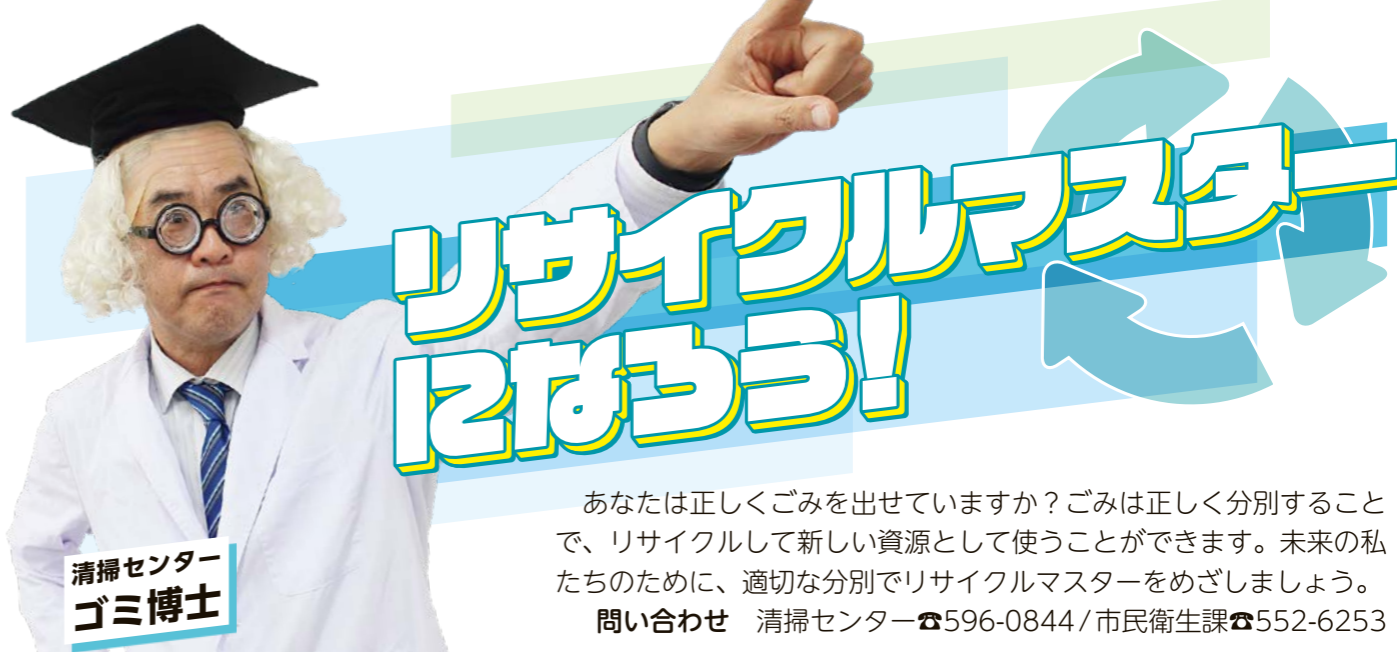
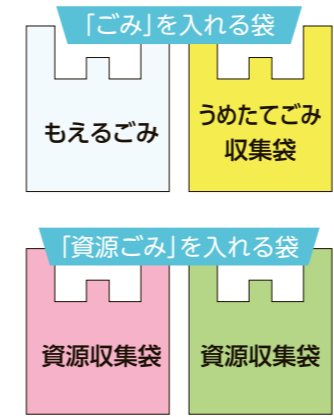
ごみは人が生活するうえで必ず出てくるものですが、そのごみをもとから減らす(リデュース)、ごみにせず繰り返し使う(リユース)などの努力も必要です。ごみを資源にする(リサイクル)のは最後の手段です。ごみをごみにしないために、できることから取り組んでいきましょう。

[3つのR] Reduce リデュース Reuse リユース Recycle リサイクル



「資源」になるんじや

市では毎日約38トンのごみが発生しており、市民一人当たり約1.1kgのごみを出しています。これらのごみを正しく分別するとリサイクル可能な資源が生まれますが、誤った分別で燃やされたり、埋められたりする場合も少なくありません。市指定ごみ袋は4種類ありますが、このうち本当のごみ袋は白色と黄色の袋のみで、プラスチック類が入るピンクの袋と缶・びん・ペットボトルが入る緑色の袋は「資源収集袋」です。資源収集袋に入った資源ごみは、清掃センターで人の手や機械により再度分別して新たな資源へ生まれ変わります。令和7年1月からはプラスチック資源循環促進法に基づき今まで燃やしていたプラスチック製品のリサイクルも始まります。限りある資源を大切に利用するために、正しい分別を知って生活の中で実践していきましょう。



清掃センター ゴミ博士

あなたは正しくごみを出せていますか? ごみは正しく分別することで、リサイクルして新しい資源として使うことができます。未来の私たちのために、適切な分別でリサイクルマスターをめざしましょう。 問い合わせ 清掃センター ☎596-0844 / 市民衛生課 ☎552-6253

正しく分別できていないと… 正しい分別ができないと、資源が再利用できないほかに次のような問題も起きます。

火災や有害物質混入の危険性

昨年、清掃センターの燃えるごみをためる「ごみピット」内で火災が発生しました。また、ごみ収集時の収集車の火災も全国的に多発しています。不適切な分別は大きな事故につながったり、有害物質の混入により適切なごみ処理ができなくなったりします。

【発火物・危険物の例と捨てる時の注意】

- カセットボンベ・スプレー缶
= 中身を使い切ってから、穴をあけてガスを抜き「缶・びん類」へ
- 充電式電池(リチウムイオン電池など)
= 小型充電式電池回収協力店で引取を相談するか、拠点回収に持ち込む
- 水銀を含むごみ(水銀体温計、水銀血圧計など)
= 市民衛生課・清掃センターの窓口もしくは拠点回収に持ち込む 詳しくはこちら

埋立ごみの容量超過

焼却や資源化できない埋立ごみ(陶器類、コンクリート片、汚れている缶、びんなどの資源ごみ)は、清掃センターの埋立地で処分していますが、現在埋立地の容量の限度が迫っています。埋立地がいっぱいになると、埋立ごみの処理を市外の処理施設へ委託していくことになるため多額の費用がかかります。少しでも埋立地を長く使うためには、正しい分別を行い、埋立ごみを減らす努力が必要です。



特集 情報ピックアップ タウンレポート HOTOIC 市政レポート インフォメーション おでかけ・相談 はぐくみ 街かどリポート まちの話題

覆面座談会

女性に選ばれるまちにするために

【司会】 今回は、覆面座談会という形式で、「前からおかしいと思っていた」「ずっと我慢してきたけどどうにかならないのか」など、曰ころ、家庭や地域、また職場でも、違和感を感じたことがあれば、本音で話していただきたいと思っています。

【Dさん】 起業すると同時に子どもが生まれ、夫も私も自営業なので産休もありませんでした。どちらかが働いてお金を稼がないといけないので、働きながらの子育ては大変だと思いました。

【Aさん】 長男の嫁として、結婚してから、仕事や子育て、家事など、1人で何役するんだろうと思いつつやってきました。自分の母もしてきたことなので、それが当たり前だとは思いますが、しんどいなあとは思っていました。

【Aさん】 私が入社したころ、女性はお茶くみをしたり、タバコの灰皿を洗ったりしていました。また、女性が管理職になることが考えられない時代で、「このまま退職していくんだらうなあ」と思っていました。
【Bさん】 職場では男性と2人で仕事をしていました。男性は、お茶を飲むとコップを流しに置いたままにされるので、「これは私が洗う」ということですか」と尋ねたことがあります。

ジェンダー平等が叫ばれる中、ジェンダー・ギャップ指数調査※1で日本は下位に低迷することが続いています。男女共同参画基本法ができ、法整備は整ったものの意識がなかなか付いていかない状況です。今回、市内で暮らす女性たちにお集まりいただき、家庭や職場、日々の生活の中で感じている本音を語っていただきました。

（司会）男女共同参画アドバイザー・中川智子さん
問い合わせ 男女共同参画センター ☎5522・1511

これからの人生は、自分を大切に、幸せを感じながら過ごしたいです。

Aさん (50代)
仕事は管理職として活躍する一方、家庭においても、家事、育児を一手に担い、仕事と家庭を両立させている。

まさに女性が変われば地域も変わる。女性のパワーのすごさに感銘！

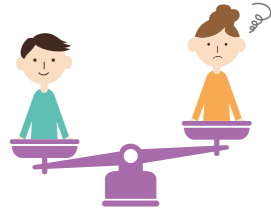
Bさん (70代)
仕事を退職後、地域活動に積極的に参画し、地域住民のリーダーとして活躍されている。

女性が自分らしく生きていける社会をつくるために女性と男性の意識を変えよう。

Cさん (50代)
夫を亡くし、一家の大黒柱として自治会、地域活動に日々奮闘されている。

起業と同時に出産。働きながらの子育ては大変。

Dさん (30代)
神戸市から家族で丹波篠山へ移住。現在、子育て奮闘中。



※1) **ジェンダー・ギャップ指数**
ジェンダーギャップ指数とは 世界経済フォーラムが公表する世界各国の男女平等の度合いを経済・教育・健康・政治の分野から数値化したもの。「1」が男女平等で「0」に近い数値になるほど不平等であることを表します。
2024年国別ランキングでは、1位のアイスランドの「0.935」に対し、日本は「0.663」と146カ国中118位でした

【Bさん】 約50年前に結婚で丹波篠山にきたとき、親との同居は当たり前でした。私は4世代8人で過ごし、子育てや介護を担ってきました。どんな集まりでも女性は一歩下がってみたいな意識があり、社関係の役員には女性が入ってはいけないなど、昔の名残りが数多く残り、男尊女卑を痛切に感じ、本当に閉鎖的だと思っていました。

【Cさん】 本当に大事なものは、親の育て方なんです。男の子を育てる母親は、特に男女平等を意識して育てないといけないと思います。
【Aさん】 男性が育児休暇をとることも、私たちの時代では考えられないことでした。法整備が進み、時代が変わってきたと思います。
【Dさん】 夫の両親が家に来られたときに、みんなでご飯の準備をしている中、お父さんは手伝わらずに一人だけ座ってテレビを見ていたときはびっくりしました。
【Cさん】 気付かない人はずっと気付かないです。女性は男性に言うことをあきらめていますし、言っても変わらないと思っています。
【Bさん】 話は変わりますが、女性には会議の場であまり発言しないで、終わってから言われます。意見は会議の場で言わないという意味がありません。
【司会】 丹波篠山で生まれ育った方も、閉鎖的で息苦しいとか、風通しが悪いとか、勇気を持って言う必要があります。ある意味、よそ者頼りじゃ、困ってしまいます。ほかに、祭礼時には、女性は料理をつくるなど裏方で汗を流し、男性はお酒を飲んで座ってるっていうのは、どうなんでしょう。女性には祭が近づけば、またしんどい思いをするという気持ちは少しあるような気がします。



よって女性会長はあまり誕生していません。男性が表方を、女性が裏方という意識があれば、地域そのものも変わらないと思います。その辺りはどうですか。

【Bさん】 執行機関には、男性が多く、女性は少数で意見を言うにも勇気がいります。執行機関に女性枠を設けたり、副会長の1人は女性にしたりするようにしたら、1番早いと思います。何かを投じないと絶対変わらないと思います。

【Cさん】 子どもたちがずっとここで生きていくんだというぐらいのまじりにしていくためには、やっぱり移住者の方の新鮮な目で、丹波篠山を変えていくことも大事だと思います。そんな愛せる丹波篠山になっていきますか。

【Cさん】 私たちより上の年代は変わらないと思います。女性がおもてなしをするのが当たり前になっています。

【Dさん】 女性が大変だということはおく聞いています。

【司会】 最初にBさんが言われた自治会長が少ないことについて、投票

て、移住してきましたが、今まで住んでいた都会に比べたら、まだまだ進んでいないと感じるところもあります。

【司会】 移住者同士のネットワークとかもあるんでしょう。そこで意見とかですか。

【Dさん】 いろいろですね。

【司会】 かしまらずに気楽に行ける窓口をつくってもらえればよいと思います。移住者の方が新鮮な気持ちでまちづくりに参加できるように市民と行政の風通しをよくしておく必要があると思います。移住者の方の意見は宝物だから。

【Bさん】 行政は聞く耳を持って、おかしいことは改革していかないとけないと思います。

【司会】 女性が生き生きと自分らしく生きていける、そういう社会をつくるために、もうこれだけはやっぱり変えていったほうがいいんじゃないか、もうこれだけは目覚めたほうがいいんじゃないかとか、丹波篠山だけに限らず、社会の中で思うことがあればざっくばらんにお話しください。

【Cさん】 女性と男性の意識を変えないとよくならないと思います。女性の体のことや生理のことをもっと男性は知るべきだと思います。生理痛などのつらさを持ちながら働くそのしんどさを理解してほしいと思います。

【Aさん】 人ってなかなか変わらないうし、変えられませんか。丹波篠山が大好きと言っていた娘も市外に出てしまいました。その理由は、私がつつと家でしんどいなあと行って家事や地域の付き合いをしてたのを見ていて思うところがあつたんじゃないかなと考えています。自分が変わる事ができたらよかったです。

【司会】 どうしてサポートを求められなかったんだろう。助けてとかなかなか言えなかったのですか。

【Aさん】 私が頑張ればいいのかああと思っていました。仕事もしながら家庭や子どものことをして何とか過ごせており、余裕がなかったので当時はそうは思いませんでした。

【司会】 娘さんが出て行くとき、出ていったほうが自由に生きれると思われたのでしょうか。

【Aさん】 どの店に行っても知り合いに会ったり、「車でここを走っていたね」と言われたりして、何かきゅんきゅんさを感じていたのかもしれないですね。

【Cさん】 「ここに行くんで」と、聞かれることはよくあります。いちいちどうして言わないといけないのかって思っていました。多分みんないやだと思えます。

【司会】 どうして聞くんですか。

【Bさん】 私も他県から来たとき、

考えています。あとは、4世代同居の生活においては結婚は忍の一字だと実感しました。

【Cさん】 あまり子どもに結婚って忍の1字だと言ってしまうと、結婚しなくなりそうです。でも、父親が母親と分担して家事をすることをさせることも大切だと思います。父親が家事をすることが当たり前になる時代がくれば、1番うまくいくんじゃないでしょうか。

【Bさん】 自分でやれることはやっぱり自分でやらないと、それが普通に生きることだと思えます。

【Cさん】 人間の固定観念を変えていかないとけないと思います。

【Bさん】 子育てをするにも楽しい子育てをする必要がありません。子育ての楽しさを男性も味わうべきだし、妻のためじゃなく、自分のためにするものだと思います。

【司会】 いろいろなご意見ありがとつございました。私もとても勉強になったし、世のため、人のため、丹波篠山市民のためにこれを読んだ方が、今日から自分もこういうところをちょっと変えていこうと行動されることを期待して、本日の座談会を終わらせていただきます。

今回の座談会は2時間にわたるものでした。紙面の関係で内容を縮小して掲載しています。

丹波篠山とのお付き合いは、もう40年ほどになります。有機野菜の購入がきっかけで、援農活動でよく来ていました。そのころから感じていたことが、今回の座談会でストンと腑に落ちました。

そう、このまちの女性たちは超頑張り屋さんなんです。よく働く、弱音を吐かない、いつも明るく、そして優しい。泣きたいときも笑ってしまうので、他の人も気付かない。反乱を起こさず長い歳月が過ぎ、そして思うのです。「私は自分の人生を生きてきただろうか」嫁、母、妻のしがらみ、地域の目、それらに縛られた人生ではなかったのだろうか。

覆面座談会に出席してくれた一人ひとりの方々は、淡々と正直に自らの思いを語ってくれました。その言葉はまっすぐ心に深く響きました。語り合ううちに誰も

性によって縛られず 個人として尊重される社会に

が願う未来の姿が見えてきました。

性によって縛られないこと、家という制度は解き放って、個人として尊重される社会であってほしいと思います。これは、まさに憲法14条法の下の平等そのものです。憲法が制定されて77年。日本がめざした社会はいまだに遠い。若い人たちのために前に進んでいかなければと思います。

この座談会は、改めてそのことを私たちに突きつけています。「もう、頑張りすぎるのはやめよう」と。



男女共同参画アドバイザー
中川智子さん【前宝塚市長】

丹波篠山国際博

～開幕まであと半年～

会期：令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年間)
会場：丹波篠山市内全域

「大阪・関西万博」に合わせ、2025年4月1日から2026年3月31日まで市内各地で開催する「丹波篠山国際博 美しい農村、未来へ」。10月5日には、篠山チルドレンズミュージアムで「半年前だヨ！全員集合」が開かれ、子どもたちが風船を大空に一齐に放ち、セレモニーを盛り上げました。今回は、開幕まで半年を迎え、その取り組みについてお知らせします。

問い合わせ 丹波篠山国際博実行委員会(丹波篠山市観光交流部丹波篠山国際博担当) ☎552-8981

募集中！

丹波篠山国際博を一緒に盛り上げる サポーターを募集します

サポーターになって丹波篠山国際博を一緒に盛り上げよう！

対象 企業、各種団体または個人

活動内容

- ・丹波篠山国際博関連事業やイベントなどの活動サポートや情報発信
- ・丹波篠山の魅力をチラシやSNSなどで発信
- ・のぼりなどを掲示し、丹波篠山国際博のPR発信

申し込み方法 右記の2次元コードからお申し込みください



問い合わせ 丹波篠山国際博実行委員会(丹波篠山市 観光交流部 丹波篠山国際博担当) ☎552-8981



子どもたちがチアダンスを披露し、会場を盛り上げました



篠山産業高等学校の生徒たちが製作したレンタルサイクルスペースに置く、ヘルメットラックも披露されました



来年春の花の満開を願って、れんげの種まきも行われました



篠山城跡で行われるプロジェクションマッピング(イメージ画像)



丹波篠山国際博 半年前だヨ！全員集合では、子どもたちは風船を飛ばし、国際博をアピールしました

丹波篠山国際博を楽しみながら盛り上げよう

丹波篠山は今や神戸や大阪、京都在住の若者からおしゃれなまちと言われる、私たちが誇る美しい農村です。

2025年4月から1年かけて私たち自慢の丹波篠山のすばらしい日常のモノ・コト・トキを多くの方に知っていただく、現在オール丹波篠山で取り組んでいます。

篠山、城東・多紀、西紀、丹南、今田の5地区が相互に連携支援し、また一体となって企画をし、来年4月からは国内と世界からの来訪者がワクワクする、そんな1年にしていきたいと思います。

みんなで丹波篠山国際博を楽しみながら盛り上げていきましょう。



丹波篠山国際博実行委員長
小田垣昇さん

オール丹波篠山
丹波篠山国際博は、私たちが世界に誇る日常の食と農、文化芸術、自然環境、四季の美しい風景を広く知っていただき、日本の美しい農村を未来の世代へつなぐ、地方の課題を解決する機会とする企画です。

国際博のめざすところは、①丹波篠山のブランド力のさらなる向上②市民が誇りや愛着をもって暮らし続けられるまちづくり③丹波篠山のファンを増やし関係人口さらには移住・定住につなげることを目的としています。

そのため、国際博では、丹波篠山市を①城下町と古民家のエリア(篠山地区)②宿場とサイクリングエリア(城東・多紀地区)③自然とキャンプエリア(西紀地区)④丹波篠山茶と紅葉のエリア(丹南地区)⑤やきものと温泉のエリア(今田地区)の5つのエリアに分けて、各エリアの魅力を伝えます。また、自分たちが住んでいるエリアだけではなく、相互に連携・支援をしながらオール丹波篠山で取り組んでいくイベントです。

国際博に向けて
令和7年4月1日、丹波篠山国際博は、篠山城跡でのプロジェクションマッピングと幻想的な光の演出として、三の丸南広場の「丹波篠山うまいもんお城横丁」の開店で幕を開けます。このイベントは約1カ月間続き、4月5日には、田園交響ホールでオーブニング式典を開催。ダンスミュージカルやデカンショコンテストなどで国際博を一気に盛り上げます。また、1年間を通して、それぞれのシーズンごとに食のテーマを設けた食の聖地「丹波篠山グルメ感謝フェア」の開催も予定しています。

さらに、国内外からの誘客のため、大阪や京都からの直行バスや、JR西日本「丹波篠山国際博」の運行、市内広域周遊観光バス、EVTウクトウクの運行など、交通アクセス整備にも取り組んでいきます。

国際博の期間中、丹波篠山市に行けば、いつでもどこかで、イベントが行われ、体験することが出来ます。市の魅力をぜひ、見つけに来てください。

